

①

春昼を時計も少し遅れたし

高きより後ろへ落るふらここや

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

春昼に蒲公英の絮消えて無し

母の息入りし紙風船大事

春昼に時の流れの淀みかな

風船の綺麗な紙の皺だらけ

春昼に時の流れの淀むかな

花種を蒔くや赤子は縁側に

春昼に時の流れを澱ませて

桜狩花見の巷下に見て

眩しさはもう長閑さのハレーション

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

春なれや雨の合間の眩しさも

花満ちて小学校の投票所

うすら氷の日影のままに日暮かな

若草や躑躅の花の日影にも

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

初夏や白く細身のカフエの椅子

うすら氷を看取るが如く見てをりぬ

浮ぶもの埃・閃き・雲の峰

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

きらきらと嫌ひな人のサングラス

穢れたる白の消えゆく雪解かな

鳥賊リングフライ見通し良かりけり

(A)

澱む 10:30 am

ck

白くこきや 10:40 am

(I)

春なれや雨の合間の眩しさも

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

きらきらと嫌ひな人のサングラス

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

鳥賊リングフライ見通し良かりけり

穢れたる白の消えゆく雪解かな

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

高さより後ろへ落るふらここや

*あんな* こもたぬや  
4:30  
3:05 PM

母の息入りし紙風船大事

ふんふんやせせのぶ  
23 PM  
都庁の名をいくつ

風船の綺麗な紙の皺だらけ

しるし  
この町は、セリナ

花種を蒔くや赤子は縁側に

さくらとまにが  
3:12 PM

桜狩花見の巷下に見て

5:21 PM  
昔ながらは

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

昔ながらは

花満ちて小学校の投票所

おんなも土足でもよし

7:30 PM

船よ止めとよんご

強く強く

目考止むく  
5:20 PM

ふんふんや

若草や躑躅の花の日影にも

2023.4.30【角川俳句賞2023 プランB97】選24句

10行3段組14ポ BIZ 明朝 太 2023年4月30日 22:16 へ1 桐10

眩しきはもう長閑さのハレーション

花種を蒔くや赤子は縁側に

春なれや雨の合間の眩しさも

磯遊び吾子は貝殻長者なり

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

桜狩花見の巷下に見て

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

穢れたる白の消えゆく雪解かな

下手な句を褒め合うてる桜かな

高きより後ろへ落るふらここや

花満ちて小学校の投票所

ぶらんこを百漕ぎ溜めよ夕焼空

若草や躑躅の花の日影にも

ぶらんこを漕ぐや日暮を止むべく

帆船と言ふにあらねど夏の旅

時よ止れとぶらんこを強く漕ぐ

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

お尻でも土足でも良しぶらんこは

きらきらと嫌ひな人のサングラス

母の息入りし紙風船大事

烏賊リングフライ見通し良かりけり

風船の綺麗な紙の皺だらけ

日々ひとつ割つて滅りゆく寒卵

3



4

眩しきはもう長閑さのハレーション 花種を蒔くや赤子は縁側に きらきらと嫌ひな人のサングラス

春なれや雨の合間の眩しさも 桜狩花見の巷下に見て 日本にラジオ体操夏休

健やかにうすら氷うかぶ日影かな 虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜 烏賊リングフライ見通し良かりけり

残りたる雪よ氷よ日の暮よ 千本の中の一本早も花 日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

穢れたる白の消えゆく雪解かな 花満ちて小学校の投票所

高きより後ろへ落るふらここや 若草や躑躅の花の日影にも

ぶらんこを百漕ぎ溜めよ夕焼空 帆船と言ふにあらねど夏の旅

ぶらんこを漕ぐや日暮を止むべく 初夏や白くて華奢なカフェの椅子

時よ止れとぶらんこを強く漕ぐ 天平の乙女ぞ伏せる五月闇

お尻でも土足でも良しぶらんこは 明度輝度彩度構はず炎天下

母の息入りし紙風船大事 雷神の擲つ雹の拳大

風船の綺麗な紙の皺だらけ ひとつよりふたつが重し柏餅

3.5.6 01.53 am



2023.5.7【角川俳句賞2023

プランB14

選34

段組14ポ

BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月7日 14:03 桐10

眩しきはもう長閑さのハレーション

母の息入りし紙風船大事

天平の乙女ぞ伏せる五月闇

春なれや雨の合間の眩しさも

風船の綺麗な紙の皺だらけ

明度輝度彩度構はず炎天下

革張りの分厚きドアの春の闇

花種を蒔くや赤子は縁側に

雷神の擲つ電の拳大

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

桜狩花見の巷下に見て

ひとつよりふたつが重し柏餅

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

きらきらと嫌ひな人のサンガラス

穢れたる白の消えゆく雪解かな

千本の中の一本早も花

日本にラジオ体操夏休

高きより後ろへ落るふらここや

点在の赤は躑躅の蕾なり

烏賊リングフライ見通し良かりけり

ぶらんこを百漕ぎ溜めよ夕焼空

花満ちて小学校の投票所

紙よりも鉄おもたし露けしや

ぶらんこを漕ぐや日暮を止むべく

若草や躑躅の花の日影にも

CMはぴりん・ひぴりん風邪薬

時よ止れとぶらんこを強く漕ぐ

帆船と言ふにあらねど夏の旅

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

お尻でも土足でも良しぶらんこは

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

寝返りて少し異なる春の夢

圧力の圧力鍋と雲の峰

2023 5.10 10:55pm 中へ 大に強く ぶらんこを漕ぐ 2023 5.10 10:55pm 大に強く ぶらんこを漕ぐ

5 4

ふつふつと炎天下 0! 40 am

学用 巻3号  
3年

2023・5・12【角川俳句賞2023 プランB180】

選20句 段組14ポ

明治朝 太 2023年5月12日 11:46 桐10

6

春なれや雨の合間の眩しさも

眩しさはもう長閑さのハレーション

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

穢れたる白の消えゆく雪解かな

風船の綺麗な紙の皺だらけ

高きより後ろへ落るふらここや

ぶらんこを漕ぐや日暮に負けまじく

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

千本の中の一本早も花

桜狩花見の巷下に見て

点在の赤は躑躅の蕾なり

若草や躑躅の花の日影にも

新芽 太々 春筍 芽吹く

革張りの分厚きドアの春の闇

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

烏賊リングフライ明るい楕円形

紫陽花の葉に早緑の蕾かな

年ごとの梅干す笊の赤さかな

明度輝度彩度吹っ飛ぶ炎天下

きらきらと嫌ひな人のサングラス

日本にラジオ体操夏休

雷神の擲つ電の拳大

絵団扇の裏の酒屋の名前かな

ラムネ壘重き硝子の薄みどり

紙よりも鉄おもたし露けしや

CMはびりん・ひびりん風邪薬

日々ひとつ割って減りゆく寒卵

2:10pm



ア

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

桜狩花見の巷下に見て

風邪薬にぴりん・ひびりんありにけり

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

新芽太々春筍芽吹く

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

穢れたる白の消えゆく雪解かな

革張りのドアの向ふの春の闇

春なれや雨の合間の眩しさも

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

眩しさはもう長閑さのハレーション

烏賊リングフライ明るい楕円形

風船の綺麗な紙の皺だらけ

紫陽花の葉に早緑の蕾かな

高さより後ろへ落るふらここや

年ごとの梅干す笹の赤さかな

ぶらんこを漕ぐや日暮に負けまじく

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

日本にラジオ体操夏休

点在の赤は躑躅の蕾なり

雷神の擲つ電の拳大

若草や躑躅の花の日影にも

絵団扇の裏の酒屋の名前かな

千本の中の一本早も花

紙よりも鉢おもたし露けしや

5.14 3:40 am

5.13 11:55 am

5.13 4:40 am

今年作らん

早緑

5.13 11:45 am

5.13 10:05 pm

5.12 10:40 pm



2023.5.14 【角川俳句賞2023】

プランB203

選評

3段組14ポ

BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月14日 17:24 桐10

季節?

健やかにうすら氷うかぶ日影かな

5:20 a.m. 5:20 a.m.

残りたる雪よ氷よ日の暮よ

4:40 a.m.

老残の白も消えゆく雪解かな

春なれや雨の合間の眩しさも

眩しさはもう長閑さのハレーション

風船の綺麗な紙の皺だらけ

高さより後ろへ落るふらんここや

ふらんこを漕ぐや日暮に負けまじく

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江ノ島に壺焼を食ふ昼の雨

点在の赤は躑躅の蕾なり

若草や躑躅の花の日影にも

桜狩花見の巷下に見て

4:45 a.m.

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向ふの春の闇

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

烏賊リングフライ明るい楕円形

雷神の擲つ電の拳大

今年また梅干す箆を赤く染め

日本にラジオ体操夏休

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

紙よりも缺おもたし露けしや

葉塚は大樹の如し寄りかかる

5:15 a.m.

風邪に寝てぴりん・ひぴりん葉箱

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

甘んびに大打の甘んびはたあうげうさ

4:11 a.m.

8

27

A

A

2023年5月15日  
22句

2023・5・15【角川俳句賞2023 プランB22】

選28句 段組14ポ BIZ 明朝 太 2023年5月15日 13:33 桐10

やすらかにうすら氷うかぶ白影かな

若草や躑躅の花の日影にも

紙よりも鉄おもたし露けしや

もう消ゆる雪よ氷よ日の暮よ

高きより花見の巷下に見て

藁塚に大樹の夢はなかりけり

老残の白も消えゆく雪解かな

新芽太々春筍を掘る

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

春なれや雨の合間の眩しさも

革張りのドアの向うの春の闇

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

眩しさはもう長閑さのハレーション

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

炎帝もたまを浴びて善慈へしや  
5:16 7:17 am

春雨の終日ふりし夜の坂

烏賊リングフライ明るい楕円形

風船の綺麗な紙の皺だらけ

雷神の擲つ雹の拳大

高きより後ろへ落るふらここや

今年また梅干す箆を赤く染め

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

日本にラジオ体操夏休

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

江ノ島に壺焼けむる昼の雨

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

点在の赤は躑躅の蕾なり

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

洗面の水をたし夏休 5:16 7:47 am  
おまことよ  
今年と  
大空のやまを浴びて 小笠原に

cf 日サ陸

9



10

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

若草や躑躅の花の日影にも

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

高きより花見の巷下に見て

紙よりも鋏おもたし露けしや

老残の白も消えゆく雪解かな

新芽太々春筍を掘る

藁塚に大樹の太さありにけり

春なれや雨の合間の眩しさも

革張りのドアの向うの春の闇

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

眩しさはもう長閑さのハレーション

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

日々ひとつ割つて減りゆく寒卵

春雨の終日ふりし夜の坂

烏賊リングフライ明るい楕円形

風船の綺麗な紙の皺だらけ

雷神の擲つ電の拳大

高きより後ろへ落るふらここや

今年また梅干す箆を赤く染め

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

日本にラジオ体操夏休

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

江の島に壺焼けむる昼の雨

炎帝や夕立を浴びて宴席に

点在の赤は躑躅の蕾なり

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

炎 5:30 P.m



2023.5.16 角川俳句賞2023 プランB140

選20行 段組14ポ

BIZ 明朝 太 2023年5月16日 17:13 桐10

夏休

11

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

若草や躑躅の花の日影にも

炎帝や夕立の後の宴席に

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

高きより花見の巷下に見て

紙よりも缺おもたし露けしや

老残の白も消えゆく雪解かな

新芽太々春筍を掘る

藁塚に大樹の太さありにけり

春なれや雨の合間の眩しさも

革張りのドアの向うの春の闇

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

眩しさはもう長閑さのハレーション

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

日々ひとつ割って減りゆく寒卵

春雨の終日ふりし夜の坂

今年また梅干す笹を赤く染め

能のうたをうたわれ心甘きかな

風船の綺麗な紙の皺だらけ

烏賊リングフライ明るい楕円形

マニエ甘くきつめを

高きより後ろへ落るふらここや

日本にラジオ体操夏休

アヒレをきつめる汁もシカホ

ぶらんこを漕ぐや没日に抗すべく

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

アヒレをきつめる汁もシカホ

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

アヒレをきつめる汁もシカホ

江の島に壺焼けむる昼の雨

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

アヒレをきつめる汁もシカホ

点在の赤は躑躅の蕾なり

雷神の擲つ電の拳大

アヒレをきつめる汁もシカホ

アヒレの汁もシカホ  
アヒレの汁もシカホ  
アヒレの汁もシカホ

アヒレの汁もシカホ

アヒレの汁もシカホ  
アヒレの汁もシカホ  
アヒレの汁もシカホ

3am

12

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

点在の赤は躑躅の蕾なり

●青空にのけ反るやうに飲むラムネ

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

若草や躑躅の花の日影にも

雷神の擲つ雹の拳大

老残の白も消えゆく雪解かな

高きより花見の巷下に見て

炎帝や夕立の後の宴席に

春なれや雨の合間の眩しさも

新芽太々春筍を掘る

●デパートの一つ消えたる秋の町

眩しさはもう長閑さのハレーション

革張りのドアの向うの春の闇

紙よりも鉢おもたし露けしや

春雨の終日ふりし夜の坂

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

藁塚に大樹の太さありにけり

~~風船の綺麗な紙の皺だらけ~~

今年また梅干す箆を赤く染め

●秋深し図書館・本屋・古本屋

●大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

烏賊リングフライ明るい楕円形

●寒風が殺風景を切り裂けり

高きより後ろへ落るふらここや

日本にラジオ体操夏休

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

日に一つ割れば減りゆく寒卵

●臙夜の餡子を甘く甘く煮る

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

江の島に壺焼けむる昼の雨

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

さろざろよ 5.17 9:20am



豆のこし  
薄切のちりめん  
行末至4:

20 23 33 am

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

若草や躑躅の花の日影にも

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

高きより花見の巷下に見て

青空にのけ反るやうに飲むラムネ

老残の白も消えゆく雪解かな

新芽太々春筍を掘る

雷神の擲つ電の拳大

春なれや雨の合間の眩しさも

革張りのドアの向うの春の闇

炎帝や夕立の後の宴席に

眩しさはもう長閑さのハレーション

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

デパートの一つ消えたる秋の町

春雨の終日ふりし夜の坂

紫陽花に香の七変はなかりけり

紙よりも鉄おもたし露けしや

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

今年また梅干す箆を赤く染め

藁塚に大樹の太さありにけり

高きより後ろへ落るふらここや

烏賊リングフライ明るい楕円形

秋深し図書館・本屋・古本屋

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

日本にラジオ体操夏休

寒風が殺風景を切り裂けり

江の島に壺焼けむる昼の雨

夏休算数国語理科社会

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

臘夜の餡子を甘く甘く煮る

明度輝度彩度吹つ飛ぶ炎天下

日に一つ割れば減りゆく寒卵

点在の赤は躑躅の蕾なり

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

カトをぬい 5:18  
子アをぬい 4:54 am  
トアをぬい

冷房を  
エスカレーター  
下を降り  
4:07 am

水くさい  
水っぽい  
ぼろぼろ  
4:17 am

ラキョウの  
3の47372  
夕子をり  
4:22 am

昇りてゆかにほにほに  
13  
11:37 am

プランB187

選38句  
段組14ポ  
12:10 pm

BIZ UN明朝 Wed 太 2023年5月17日 15:53 11桐10

枕をぬい  
捨つる仔の尻  
4:50 am

↑  
4:50 am



やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

鯖のこと何も知らざる柿若葉

デパートの一つ消えたる秋の町

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

~~水くさいやら水つばいやら梅雨深し~~

紙よりも缺おもたし露けしや

老残の白も消えゆく雪解かな

紫陽花に香の七変はなかりけり

藁塚に大樹の太さありにけり

春なれや雨の合間の眩しさも

今年また梅干す箆を赤く染め

秋深し図書館本屋古本屋

眩しさはもう長閑さのハレーション

烏賊リングフライ明るい楕円形

~~寒風が殺風景を切り裂けり~~

春雨のひねもす降りし夜の坂

日本にラジオ体操夏休

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

夏休算数国語理科社会

日に一つ割れば減りゆく寒卵

ある時は後ろへ落るふらここよ

明度輝度彩度全滅炎天下

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

日本の日曜の日の盛りなり

江の島に壺焼けむる昼の雨

蝌蚪を食ひ子子を食ひ蜻蛉生る

朧夜の砂糖食る餡作り

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

点在の赤は躑躅の蕾なり

冷房をエスカレーター下るなり

若草や躑躅の花の日影にも

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

高きより花見の巷下に見て

辣蕪のラの澁刺と匂ふなり

新芽太々春筍を掘る

~~空の青のけ反るやうに飲むラムネ~~

革張りのドアの向うの春の闇

雷神の擲つ電の拳大

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

炎帝や夕立の後の宴席に

15

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

鯖のこと何も知らざる柿若葉

藁塚に大樹の太さありにけり

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

紫陽花に香の七変はなかりけり

秋深し図書館、本屋、古本屋

老残の白も消えゆく雪解かな

今年また梅干す箆を赤く染め

風邪に寝てピリン・非ピリン薬箱

春なれや雨の合間の眩しさも

烏賊リングフライ明るい楕円形

日に一つ割れば減りゆく寒卵

△眩しさはもう長閑さのハレーション

日本にラジオ体操夏休

春雨のひねもす降りし夜の坂

夏休算数国語理科社会

△大陸に行くふらこ子よ、ふらん奴よ

△明度輝度彩度振つ切る炎天下

ある時は後ろへ落るふらここよ

△日本の日曜の日の盛りなり

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

△蝌蚪を食ひ子子を食ひ蜻蛉生る

江の島に壺焼けむる昼の雨

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

臘夜の砂糖貪る餡作り

冷房をエスカレーター下るなり

△点在の赤は躑躅の蕾なり

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

若草や躑躅の花の日影にも

△~~辣蕪~~のラの澆刺と匂ふなり

高きより花見の巷下に見て

△雷神の擲つ雹の拳大

新芽太々春筍を掘る

炎帝や夕立の後の宴席に

革張りのドアの向うの春の闇

デパートの一つ消えたる秋の町

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

紙よりも鈇おもたし露けしや

Handwritten notes in red ink: 金銀, 先達の光, 炎天下, 12:19, 0:35 am, 超超, 11:45 pm, 10:10 pm, 24:27, 0:45 am.



2023.5.19 【角川俳句賞2023 プランB210】

選28句 段組14ポ

BIZ 日明朝 Wed 太 2023年5月19日 07:38

消えし 9:35 am

アノ200中の 白砂糖 9:15 am

アノ200中の 白砂糖 9:10 am

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

日本にラジオ体操 夏休

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

夏休算数、国語、理科、社会

老残の白も消えゆく雪解かな

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

春なれや雨の合間の眩しさも

✕冷房をエスカレータートるなり

春雨のひねもす降りし夜の坂

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

炎帝や夕立の後の宴席に

江の島に壺焼けむる昼の雨

デパートの一つ消えたる秋の町

臘夜の砂糖貪る饅作り

紙よりも鉄おもちたし露けしや

若草や躑躅の花の日影にも

蕙塚に大樹の太さありにけり

高きより花見の巷下に見て

秋深し図書館本屋古本屋

新芽太々春筍を掘る

日に一つ割れば減りゆく寒卵

革張りのドアの向うの春の闇

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

鯖のこと何も知らざる柿若葉

紫陽花に香の七変はなかりけり

今年また梅干す箆を赤く染め

烏賊リングフライ明るい楕円形

16

下りのエスカレーターへ 8:55 am

冷房の中を夏装束かき 9:40 am

白くの子に入ろははしかり 9:55 am

冷房のビル回廊にて 9:00 am

よきこちとあわれまじき

地下エスケーター 9:00 pm

階から階へエスケーター 3:23 pm

ビルに夏装束 9:00 pm

ビルに夏装束 9:25 pm

ビルに夏装束 9:00 pm



2023.5.19 角川俳句賞2023 プランB13

選27行 段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月19日 18:32 桐10

打ち出し? 夜をさすは 10:11 PM 全編の音

57と2+ 10:03 PM 三軒にカマエ 花れたる

333と2の 及かな

草かから 53と2の(作り) 花の音 9:50 PM

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

鯖のこと何も知らざる柿若葉

藁塚に大樹の太さありにけり

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

紫陽花に香の七変はなかりけり

秋深し図書館本屋古本屋

老残の白も消えゆく雪解かな

今年また梅干す箆を赤く染め

日に一つ割れば滅りゆく寒卵

春なれや雨の合間の眩しさも

烏賊リングフライ明るい楕円形

春雨のひねもす降りし夜の坂

日本にラジオ体操夏休

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

夏休算数国語理科社会

江の島に壺焼けむる昼の雨

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

若草や躑躅の花の日影にも

冷房の中をウインドショッピング

高きより花見の巷下に見て

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

新芽太々春筍を掘る

炎帝や夕立の後の宴席に

革張りのドアの向うの春の闇

デパートの一つ消えたる秋の町

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

紙よりも鉢おもたし露けしや

10:11 PM 全編の音

17

選27行 段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月19日 18:32 桐10

ラキウウウモッ と 停りし形かな 7:45 PM

カリーよう 若かへりたさくえん 8:35 PM

ビルはしな本の紋 7:30 PM

松と古みりんぶともいふイナブル 8:38 PM

木下君 木下君は友達で 9:44 PM

自然の段々  
花の様の  
長き枝

手元の  
枝のまわり  
白き枝

あまりにも  
花の枝の  
白き枝  
5:10 am

まん甲の  
花の枝の  
白き枝  
4:15 am  
は 5:20 am

2023.5.19 【角川俳句賞2023 プランB150】

選33句 段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月19日 23:39 ↑ 桐10

いくたむもりの  
花の枝の  
白き枝  
5:13 am

18

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

長旅にあらねど江戸へ初鯉

炎帝や夕立の後の宴席に

老残の白も消えゆく雪解かな

鯖のこと何も知らざる柿若葉

巢箱からチラリと蛇の頭かな

春なれや雨の合間の眩しさも

鳥賊リングフライ明るい楕円形

灯を消して夜空を知らぬ金魚かな

春雨のひねもす降りし夜の坂

チェリーより若き色香のさくらんぼ

デパートの一つ消えたる秋の町

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

辣蕪のきゆつと絞れる頭かな

紙よりも鉄おもたし露けしや

江の島に壺焼けむる昼の雨

紫陽花に香の七変はなかりけり

藁塚に大樹の太さありにけり

若草や躑躅の花の日影にも

今年また梅干す箆を赤く染め

秋深し図書館本屋古本屋

高きより花見の巷下に見て

日本にラジオ体操夏休

日に一つ割れば減りゆく寒卵

新芽太々春筍を掘る

夏休算数、国語、理科、社会

花は花の色に  
もう花べぬ  
5:20  
1:07 am

革張りのドアの向うの春の闇

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

ナイターに  
あわさる  
5:103 am

石鹼お風呂で飛ばす裸ん坊

ビル涼し食事の前のショッピング

5:103 am







2023.5.21【角川俳句賞2023

プランB1901

段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月21日 09:05 へ1 桐10

20

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

老残の白も消えゆく雪解かな

春なれや雨の合間の眩しさも

春雨のひねもす降りし夜の坂

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

若草や躑躅の花の日影にも

高きより花見の巷下に見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

湯舟から裸で飛ばす石鯨玉

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

一刻を江戸へ争ふ初鰹

烏賊リングフライ明るい楕円形

納豆を混ぜる力や柿若葉

まだ鯖を知る術もなき柿若葉

チェリーより若き色香のさくらんぼ  
辣蕪のきゆつと括れし顔かな

紫陽花に香の七変はなかりけり

今年また梅干す箆を赤く染め

日本にラジオ体操夏休

夏休み算数、国語、理科、社会

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

ビル涼し食事の前のショッピング

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

炎帝や夕立の後の宴席に

幾度も巴里の開放巴里祭

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

巣箱からチラリと見えし蛇の首

灯を消して夜空を知らぬ金魚かな

デパートの一つ消えたる秋の町

紙よりも鈍おもたし露けしや

秋深し図書館、本屋、古本屋

藁塚に大樹の太さありにけり  
日に一つ割れば減りゆく寒卵

肉ヤカて焼肉とをよ夏川川

肉はいま焼肉と花す

焼あげ肉は焼肉夏川川

肉は丸肉に夏川川焼

肉の色は焼肉の色夏川川

全身丸上子先等とはあり

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

肉の色は焼肉の色夏川川

5:22 2:49 am  
6:45 am  
2:25 am  
に響りの  
毛や  
9:17 am

2:53 am

5:22 2:47 am

6:10 am

6:15 am

6:30 am



2023.5.22 角川俳句賞2023 プランB 22選40句 段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月22日 20:41 へ1 桐10

工場の持  
花田の上  
おはこめ  
5:13 am

cf plan-A

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

老残の白も消えゆく雪解かな

春なれや雨の合間の眩しさも

春雨のひねもす降りし夜の坂

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

と言うて再び日永仕事かな

若草や躑躅の花の日影にも

高きより花見の巷下に見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

湯舟から裸で飛ばす石鮫玉

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

一刻を江戸へ争ふ初鯉

紅の肉を炙りて夏の川

烏賊リングフライ明るい楕円形

納豆を混ぜて楽しめ柿若葉  
まだ鯖を知る術もなき柿若葉

チエリーより若く明るくさくらんぼ

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

紫陽花に香の七変はなかりけり

隙あらば十葉の咲き押し合へる

今年また梅干す爪を赤く染め

日本にラジオ体操夏休

花菖蒲枯れて薄茶と茶色なり

夏休み算数、国語、理科、社会

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

ビル涼し食事の前のショッピング

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

炎帝や夕立の後の宴席に

幾度も巴里の開放巴里祭

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

巣箱からチラリと見えし蛇の首

舟上互/互のまき虫し及信合

本当の夜空を知らぬ金魚かな  
デパートの一つ消えたる秋の町

紙よりも鉄おもたし露けしや

秋雨の図書館、本屋、古本屋

藁塚に大樹の太さありにけり

日に一つ割れば減りゆく寒卵

文明の利器で  
約五を  
5:23  
1:20 am

夏休  
3:35 am

納豆の信  
3:37 am

申し欲ない  
3:45 am

江戸屋敷跡の看板  
3:45 am



やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

老残の白も消えゆく雪解かな

春なれや雨の合間の眩しさも

春雨のひねもす降りし夜の坂

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

と言うて再び日永仕事かな

若草や躑躅の花の日影にも

高きより花見の巷下に見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

湯舟から裸ん坊の石鯨玉

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

一刻を争ふ江戸の初鯉

紅の肉を炙りて夏の川

烏賊リングフライ明るい楕円形

納豆を混ぜる係の夏休

まだ鯖を知る術もなき柿若葉

コクリコや虞美人草やアマポーラ

チェリーより若く明るくさくらんぼ

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

下屋敷跡の立札花菖蒲

花菖蒲枯れて薄茶と茶色なり

隙あらば十葉の咲き押し合へる

紫陽花に香の七変はなかりけり

今年また梅干す爪を赤く染め

日本にラジオ体操夏休

夏休み算数、国語、理科、社会

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

ピル涼し食事の前のショッピング

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

炎帝や夕立の後の宴席に

文明の利器で乾かす洗ひ髪

幾度も巴里の開放巴里祭

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

菓箱からチラリと見えし蛇の首

本当の夜空を知らぬ金魚かな

デパートの一つ消えたる秋の雨

秋雨の図書館、本屋、古本屋

紙よりも缺おもたし露けしや

藁塚に大樹の太さありにけり

日に一つ割れば減りゆく寒卵

22

群のこと

0:58 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

1:29 pm

図 千石の著者 野分の夜 1:27 pm

長女の子の夜 2:42 pm



2023.5.23 【角川俳句賞2023 プランB257】

選45句 段組14ポ BIZ 5明朝 Wed 太 2023年5月23日 17:22 へ1 桐10

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

老残の白も消えゆく雪解かな

春なれや雨の合間の眩しさも

春雨のひねもす降りし夜の坂

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

と言うて再び日永仕事へと

若草や躑躅の花の日影にも

高きより花見の巷下に見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

湯舟から裸ん坊の石鯨玉

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

一刻を争ふ江戸の初鯉

紅の肉を炙りて夏の川

烏賊リングフライ明るい楕円形

まだ鯖を知らざる色に柿若葉

チェリーより若く明るくさくらんぼ

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

こくりこよ虞美人草よアマポーラ

下屋敷跡の立札花菖蒲

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶なり

隙あらば十葉の咲き押し合へる

紫陽花に香の七変はなかりけり

今年また梅干す爪を赤く染め

日本にラジオ体操夏休

夏休み算数、国語、理科、社会

納豆を混ぜる係の夏休

長茄子の寝そべるやうな長さなり

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

巣箱からチラリと見えし蛇の首

幾度も巴里の開放巴里祭

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

ビル涼し食事の前のシヨッピング

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

炎帝や夕立の後の宴席に

文明の利器で乾かす洗ひ髪

本当の夜空を知らぬ金魚かな

デパートの一つ消えたる秋の雨

紙よりも缺おもたし露けしや

図書館に千万の著者野分の夜

藁塚に大樹の太さありにけり

日に一つ割れば減りゆく寒卵

京郊をこよひ通けし2連の尻

珠の尻に色を奪はれ月かゝる

金魚が吸戻し完備し冷やされ

河童の尻や同様の腹の白きシワ

アタヤセの尻に中川のフカマカ

アタヤセの尻に中川のフカマカ

月影を江戸の江に映すと  
9:35 pm 11:47 pm

[5下止]

23

里約も致の女中  
冷信程 11:50 pm

終戦日 + 35 am

4:30 am

11:48 pm

今冷やされ 1 am

5:24 0:20 am

アタヤセの尻に中川のフカマカ 2:25 am



2023.5.24 角川俳句賞2023

プランD273

選46句

段組14ポ BIZ 5明朝 Wed 太 2023年5月24日 13:15 桐10

やすらかにうすら氷うかぶ日影かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

まだ鯖を知らざる色に柿若葉  
チェリーより若く明るくさくらんぼ

河童忌や目刺の腹の白き皺  
片蔭に入りて土堀に寄りかかり

老残の雪も消えゆく山河かな

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

炎帝や夕立の後の宴席に

春なれや雨の合間の眩しさも

こくりこよ虞美人草よアマポーラ

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

春雨のひねもす降りし夜の坂

下屋敷跡の立札花菖蒲

文明の利器で乾かす洗ひ髪

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

本当の夜空を知らぬ金魚かな

江の島に壺焼煙る昼の雨

隙あらば十葉の咲き押し合へる

終戦日全館冷暖房完備

と言うて再び日永仕事へと

紫陽花に香の七変はなかりけり

デパートの一つ消えたる秋の雨

若草や躑躅の花の日影にも

今年また爪ほの赤く梅漬ける

紙よりも鋭おもたし露けしや

高きより花見の巷下に見て

日本にラジオ体操夏休

図書館に千万の著者野分の夜

新芽太々春筍を掘る

夏休み算数、国語、理科、社会

葉塚に大樹の太さありにけり

湯舟から裸ん坊の石鹼玉

納豆を混ぜる係の夏休

日に一つ割れば減りゆく寒卵

革張りのドアの向うの春の闇

長茄子は寝そべるやうな長さなり

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

巢箱からチラリと見えし蛇の首

早駕籠を江戸へ江戸へと初鰹

幾度も巴里の開放巴里祭

紅の肉を炙りて夏の川

幾度も巴里の開放巴里祭

烏賊リングフライ明るい楕円形

幾度も巴里の開放巴里祭

幾度も巴里の開放巴里祭

雨降り141 am

今朝は朝の朝に 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am

おれのおれに 花の朝に 8:05 am



やすらかにうすら氷うかぶ日影かな

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ

巢箱からチラリと見えし蛇の首

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

チェリーより若く明るくさくらんぼ

幾度も巴里の解放巴里祭

老残の雪も消えゆく山河かな

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

河童忌や目刺の腹の白き皺

春なれや雨の合間の眩しさも

こくりこよ虞美人草よアマポーラ

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

春雨のひねもす降りし夜の坂

下屋敷跡の立札花菖蒲

炎帝や夕立の後の宴席に

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

江の島に壺焼煙る昼の雨

隙あらば十薬の咲き押し合へる

文明の利器で乾かす洗ひ髪

と言うて再び日永仕事へと

紫陽花に香の七変はなかりけり

本当の夜空を知らぬ金魚かな

若草や躑躅の花の日影にも

今年また爪ほの赤く梅漬ける

終戦日全館冷暖房完備

高きより花見の巷下に見て

日本にラジオ体操夏休

デパートの一つ消えたる秋の雨

新芽太々春筍を掘る

夏休み算数、国語、理科、社会

紙よりも缺おもたし露けしや

湯舟から裸ん坊の石鹼玉

納豆を混ぜる係の夏休

図書館に千万の著者野分の夜

革張りのドアの向うの春の闇

長茄子は寝そべるやうな長さなり

藁塚に大樹の太さありにけり

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

日に一つ割れば減りゆく寒卵

早馬を江戸へ鞭打つ初鯉

もう飛べぬ枯草色の蟬の殻

十文字の白くくると日影や

紅の肉を炙りて夏の川

翅あらば軽々空へ空蟬は

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

烏賊リングフライ明るい楕円形

石と考て 10:47pm 3:44pm

せいで起るおはしふもかう

0:50pm

日老する美かそ物増へるを 4:pm

白濁と川と 4:04pm 鳥の爪

鳥の爪の爪の中 4:30pm



やすらかにうすら氷うかぶ日影かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ  
老残の雪も消えゆく山河かな  
春なれや雨の合間の眩しさも  
春雨のひねもす降りし夜の坂  
虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜  
江の島に壺焼煙る昼の雨  
と云うて再び日永仕事へと  
若草や躑躅の花の日影にも  
高きより花見の巷下に見て  
新芽太々春筍を掘る  
湯舟から裸ん坊の石鯀玉  
革張りのドアの向うの春の闇  
初夏や白くて華奢なカフェの椅子  
早馬を江戸へ鞭打つ初鯉  
石を愛で肉を炙りて夏の川  
鳥賊リングフライ明るい楕円形

夏期強庄経へ  
志原の522反7  
11:12am  
夏期強庄  
店105反の  
おき流子

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ  
チェリーより若く明るくさくらんぼ  
辣蕪のきゆつと匂へる厨かな  
こくりこよ虞美人草よアマポーラ  
下屋敷跡の立札花菖蒲  
花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな  
十葉の白き香を追ふ緑の香  
紫陽花に香の七変はなかりけり  
今年また爪ほの赤く梅漬ける  
昇天の途中か烏瓜の花  
日本にラジオ体操夏休  
夏休み算数、国語、理科、社会  
納豆を混ぜる係の夏休  
長茄子は寝そべるやうな長さなり  
迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す  
もう飛べぬ枯草色の蟬の殻  
せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

香子人E選ふと言は  
夏休 11:45am  
香子と花とと選ふ  
夏休 11:47am

ががんばるを守ることさへ出来ず壁  
巣箱からチラリと見えし蛇の首  
幾度も巴里の解放巴里祭  
河童忌や目刺の腹の白き皺  
片蔭に入りて土塀に寄りかかり  
炎帝や夕立の後の宴席に  
絵団扇の裏に酒屋の名前かな  
△ 文明の利器で乾かす洗ひ髪  
本当の夜空を知らぬ金魚かな  
終戦日全館冷暖房完備  
デパートの一つ消えたる秋の雨  
紙よりも鉄おもたし露けしや  
図書館に千万の著者野分の夜  
葉塚に大樹の太さありにけり  
日に一つ割れば減りゆく寒卵  
夕や夏期強庄の10期生 11:20am

夕や夏期強庄の10期生 11:20am

又人の3名に流子  
か子一書 11:15am  
呼張6反団計



お前の心を今に返す日 57 pm

2023.5.26 角川俳句賞2023 プランD337

選中句 段組14ポ BIZ 明朝 Wed 太 2023年5月26日 13:33 へ1 桐10

やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ

幾度も巴里の解放巴里祭

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

チェリーより若く明るくさくらんぼ

河童忌や目刺の腹の白き皺

老残の雪も消えゆく山河かな

辣蕪のきゆつと匂へる厨かな

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

春なれや雨の合間の眩しさも

下屋敷跡の立札花菖蒲

絵団扇の裏に酒屋の名前かな

春雨のひねもす降りし夜の坂

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

本当の夜空を知らぬ金魚かな

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

十薬の白き香よりも緑の香

夏期講座終へ高原の駅を発つ

江の島に壺焼煙る昼の雨

紫陽花に香の七変はなかりけり

終戦日全館冷暖房完備

△と云うて再び日永仕事へと

今年また爪ほの赤く梅漬ける

デパートの一つ消えたる秋の雨

若草や躑躅の花の日蔭にも

昇天の途中か烏瓜の花

紙よりも鉄おもたし露けしや

高きより花見の巷下に見て

日本にラジオ体操夏休

図書館に千万の著者野分の夜

新芽太々春筍を掘る

夏休み算数、国語、理科、社会

葉塚に大樹の太さありにけり

△湯舟から裸ん坊の石鹼玉

△納豆を混ぜる係の夏休

日に一つ割れば減りゆく寒卵

革張りのドアの向うの春の闇

長茄子は寝そべるやうな長さなり

白玉を汗かいて飾りけり 6:47 pm

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

天井は紫水筆カンバサシ 7 pm

早馬を江戸へ鞭打つ初鯉

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

冷えるまで行こう 7:40 pm

△鳥賊リングフライ明るい楕円形

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

巣箱からチラリと見えし蛇の首

青年も壮年も過去更衣

夢をのちを夢にするばかり 7:50 pm

テコをぶきとてキ 51 pm

夢をのちを夢にするばかり 52 pm

白玉にたはる水の 7:44 pm

大きな風を吹き波 7:44 pm

冷えるまで行こう 7:40 pm

天井は紫水筆カンバサシ 7 pm

飾り一坪かまじけり

白玉を汗かいて飾りけり 6:47 pm







やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ



春なれや雨の合間の眩しさも

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

若草や躑躅の花の日蔭にも

高きより花見の巷低く見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

早馬を江戸へ鞭打つ初鯉

青年も壮年も過去更衣

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ

チエリーより若く明るくさくらんぼ

下屋敷跡の立札花菖蒲

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

咲きたるはウリ目ウリ科キユウリの花

7:40 to 11am

4:10 to 11:30 am

十葉は白き香よりも緑の香  
紫陽花に香の七変はなかりけり

今年また爪の薄紅梅漬ける

昇天の途中か烏瓜の花

日本にラジオ体操夏休

夏休み算数、国語、理科、社会

長茄子は寝そべるやうな長さなり

蚊の羽音ふたつ空中戦のごと

真上より見る水盤の金魚かな

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

巣箱からチラリと見えし蛇の首

幾度も巴里の解放巴里祭

河童忌や目刺の腹の白き皺

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

絵団扇の裏に酒屋の名前あり

格送けて 2:45 pm  
格送けて 2:45 pm  
格送けて 2:45 pm

如 3:25 pm



2023.5.27 角川俳句賞2023

プランB27

選49句

段組14ポ B1Z 5明朝 太 2023年5月27日 19:45 桐10

やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな  
もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

江の島に壺焼煙る昼の雨

若草や躑躅の花の日蔭にも

高きより花見の巷低く見て

新芽太々春筍を掘る

革張りのドアの向うの春の闇

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

早馬を江戸へ鞭打つ初鯉

青年も壮年も過去更衣

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ

チエリーより若く明るくさくらんぼ

下屋敷跡の立札花菖蒲

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

写生せよウリ目ウリ科花キユウリ

十葉は白き香黄の香緑の香

紫陽花に香の七変はなかりけり  
梅漬けて薄紅の爪愛しけれ

昇天の途中か烏瓜の花

日本にラジオ体操夏休

夏休み算数、国語、理科、社会

濃き色を薄く伸ばして涼しさよ

紅薔薇棘あることの涼しさよ

長茄子は寝そべるやうな長さなり

蚊の羽音ふたつ空中戦の如

真上より見る水盤の金魚かな

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

巣箱からチラリと見えし蛇の首

幾度も巴里の解放巴里祭

河童忌や目刺の腹の白き皺

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

絵団扇の裏に酒屋の名前あり  
家持の煙を今に鰻の日

天井は箸水羊羹は匙

蜜豆をさらに豪華に絢爛に

白玉を作り一汗かきにけり

東京の暮しの川の夕立かな

本当の夜空を知らぬ金魚かな

蓋をして蒸らすが如き夜の暑さ

夏期講座終へ高原の駅を発つ

終戦日全館冷暖房完備

デパートの一つ消えたる秋の雨

紙よりも缺おもたし露けしや

図書館に千万の著者野分の夜

藁塚に大樹の太さありにけり

日に一つ割れば減りゆく寒卵

花の香に  
とまらぬし 7:7 am  
2:55 pm  
折紙  
知のうぬ  
寄部を  
7:8 am  
花の香に  
向を包み  
拍子  
7:10 am

花の香に  
とまらぬし 7:7 am  
2:55 pm  
折紙  
知のうぬ  
寄部を  
7:8 am  
花の香に  
向を包み  
拍子  
7:10 am

花の香に  
とまらぬし 7:7 am  
2:55 pm  
折紙  
知のうぬ  
寄部を  
7:8 am  
花の香に  
向を包み  
拍子  
7:10 am

花の香に  
とまらぬし 7:7 am  
2:55 pm  
折紙  
知のうぬ  
寄部を  
7:8 am  
花の香に  
向を包み  
拍子  
7:10 am

30  
似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am

似たる  
やま  
7:40 am



豆飯の香ほどの余生あらまほし

写生せよウリ目ウリ科花キユウリ

河童忌や目刺の腹の白き皺

~~神の葉に巻かれて甘し柏餅~~

十葉は白き香黄の香緑の香

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな

紫陽花に香の七変はなかりけり

絵団扇の裏に酒屋の名前あり

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

梅漬けの役<sup>10 15 a m</sup>に賜る赤き爪

家持の煙を今に鰻の日

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

もう疲労困憊烏瓜の花

天井は箸水羊羹は匙

江の島に壺焼煙る昼の雨

日本にラジオ体操夏休

蜜豆をさらに豪華に絢爛に

若草や躑躅の花の日蔭にも

夏休み算数、国語、理科、社会

白玉を一汗かいて湯掻くなり

高きより花見の巷低く見て

濃き色を薄く伸ばして涼しさよ

~~東京~~の暮しの川に夕立かな

新芽太々春筍を掘る

紅薔薇棘あることの涼しさよ

本当の夜空を知らぬ金魚かな

革張りのドアの向うの春の闇

長茄子は寝そべるやうな長さなり

蓋をして蒸らす如き熱帯夜

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

蚊の羽音ふたつ空中戦の如

夏期講座終へ高原の駅に立つ

早馬を江戸へ鞭打つ初鯉

真上より見る水盤の金魚かな

終戦日全館冷暖房完備

青春は遙かなる墓碑更衣

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

デパートの一つ消えたる秋の雨

まだ鯖<sup>コエ</sup>を知らざる若き柿の葉よ

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

紙よりも狭おもたし露けしや

チェリーより若く明るくさくらんぼ

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

図書館に千万の著者野分の夜

下屋敷跡の立札花菖蒲

巢箱からちらりと見えし蛇の首

藁塚に大樹の太さありにけり

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

幾度も巴里の解放巴里祭

日に一つ割れば減りゆく寒卵

い風こそ



中

やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな

写生せよウリ目ウリ科花キウリ

河童忌や目刺の腹の白き皺

よ

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

十葉は白き香黄の香緑の香

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

紫陽花に香の七変はなかりけり

絵団扇の裏に酒屋の名前あり

江の島に壺焼煙る昼の雨

梅漬けの功に賜る赤き爪

家持の煙を今に鰻の日

創

若草や躑躅の花の日蔭にも

もう疲労困憊烏瓜の花

天井は箸水羊羹は匙

高きより花見の巷低く見て

日本にラジオ体操夏休

蜜豆をさらに豪華に絢爛に

不

新芽太々春筍を掘る

夏休み算数、国語、理科、社会

白玉を一汗かいて湯掻くなり

革張りのドアの向うの春の闇

濃き色を薄く伸ばして涼しさよ

本当の夜空を知らぬ金魚かな

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

紅薔薇棘あることの涼しさよ

蓋をして蒸らす如き熱帯夜

神の葉に巻かれて甘し柏餅

長茄子は寝そべるやうな長さなり

夏期講座終へ高原の駅に立つ

早馬を江戸へ鞭打つ初鰹

蚊の羽音ふたつ空中戦の如

終戦日全館冷暖房完備

まだ鯖を知らざる若き柿の葉よ

真上より見る水盤の金魚かな

デパートの一つ消えたる秋の雨

チェリーより若く明るくさくらんぼ

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

紙よりも缺おもたし露けしや

青春は遥かなる墓碑更衣

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

図書館に千万の著者野分の夜

豆飯の香ほどの余生あらまほし

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

藁塚に大樹の太さありにけり

M

下屋敷跡の立札花菖蒲

巣箱からちらりと見えし蛇の首

寝返れば去年がころりと今年かな

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

幾度も巴里の解放巴里祭

日に一つ割れば減りゆく寒卵

と5下5水

32

035PM

1PM



やすらかにうすら氷うかぶ日蔭かな

写生せよウリ目ウリ科花キウリ

河童忌や目刺の腹の白き皺

もう消ゆる雪よ氷よ夕焼よ

十葉は白き香黄の香緑の香

片蔭に入りて土塀に寄りかかり

虚子の忌のけふ波音の由比ヶ浜

紫陽花に香の七変はなかりけり

絵団扇の裏に酒屋の名前あり

江の島に壺焼煙る昼の雨

梅漬けし功に賜る赤き爪

家持の煙を今に鰻の日

若草や躑躅の花の日蔭にも

もう疲労困憊烏瓜の花

天井は箸水羊羹は匙

高きより花見の巷低く見て

日本にラジオ体操夏休

蜜豆をさらに豪華に絢爛に

新芽太々春筍を掘る

夏休み算数、国語、理科、社会

白玉を一汗かいて湯掻くなり

革張りのドアの向うの春の闇

濃き色を薄く伸ばして涼しさよ

星空を知らぬ金魚の眠るなり

初夏や白くて華奢なカフェの椅子

紅薔薇棘あることの涼しさよ

蓋をして蒸らすが如き熱帯夜

神の葉に包みて甘し柏餅

長茄子は寝そべるやうな長さなり

夏期講座終へ高原の駅に立つ

早馬を江戸へ走らす初鯉

蚊の羽音ふたつ空中戦の如

終戦日全館冷暖房完備

まだ鯖を知らざる若き柿の葉は

真上より見る水盤の金魚かな

デパートの一つ消えたる秋の雨

チエリーより若く明るくさくらんぼ

迷惑を掛けし蟬の子埋め戻す

紙よりも鉄おもたし露けしや

青春は遙かなる墓碑更衣

せめて翅あらばと思ふ蟬の殻

図書館に千万の著者野分の夜

豆飯の香ほどの余生あらまほし

ががんぼを守ることさへ出来ず壁

藁塚に大樹の太さありにけり

下屋敷跡の立札花菖蒲

巢箱からちらりと見えし蛇の首

寝返れば去年がころりと今年かな

花菖蒲枯れて薄茶と焦茶かな

幾度も巴里の解放巴里祭